

提案者

横浜市立義務教育学校 霧が丘学園 小学部
宮入 優佳

提案単元

3年 「ぼうグラフと表」

主張

読み手を意識し、データを活用しながら
主張を表現する子の育成

WHY なぜ学ぶのか ー育成すべき資質・能力の見極めー

○納得解を見いだす経験によって、問題解決するための方法が身につくこと。

高学年で、一連の統計的プロセスを意識し、自分たちで問題設定をして調査計画を立てたり、分析を通して判断した結論についても別の観点から妥当性を検討できるようになるために、関係するデータを整理しながら、その特徴を捉えることを単元で繰り返し行う。

○批判的な判断力が育成される。

本当にこの結論でいいのか、だけでなく、友達の考えと比較しながら、自分や他社の考えを見つめ直す経験をする。

○根拠のある主張をする力が身につく。

WHAT 何を学ぶのか ー学習対象の明確化ー

○グラフに表す、読むことを大切にする。

国語の読みのプロセスと関係させながら、考えを主張するときの文章全体の組み立てや作り手の工夫など、説明的文章を読んだ経験を自分の表現に生かせるようにする。

グラフを読むこと＝作成者の意図を読むこと

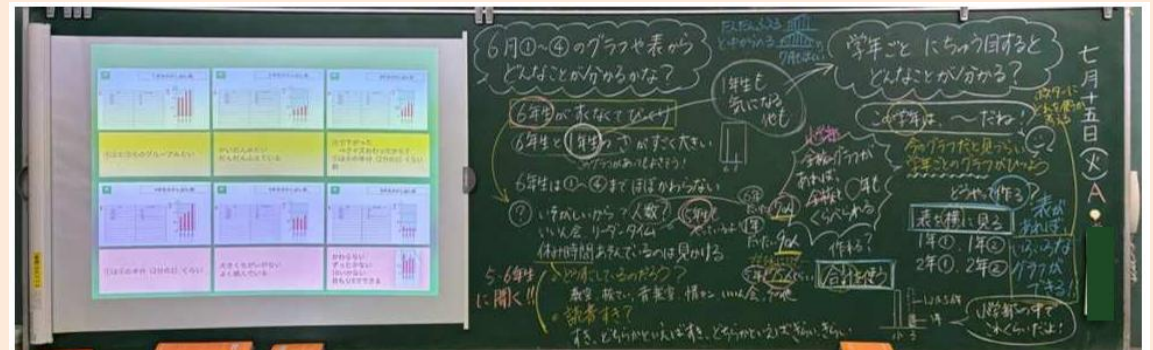
グラフを読めるようになるということで、意図をもってグラフを作成することもできるようになると考える。

HOW いかに学ぶか ー教科らしい文脈の設定ー

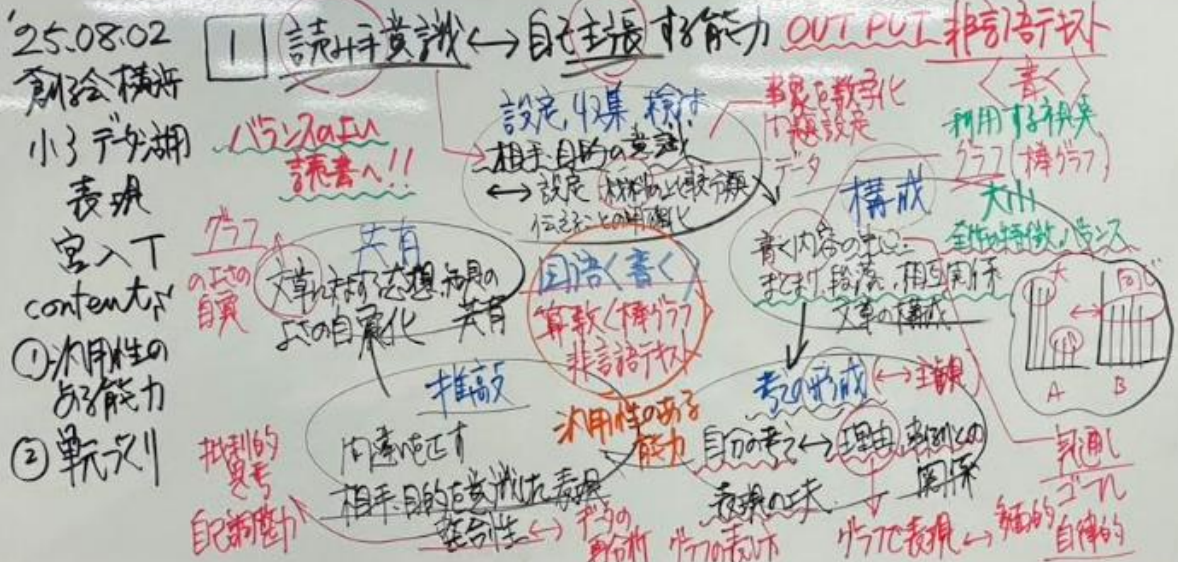
各学年の読書傾向を把握して、読書の幅(いろいろなジャンルの本を読むこと)を広げるきっかけをつくったり、読書の面白さを知ってもらったりするために、得たデータを表やグラフに表す。

自分が選んだ相手(学年)には、どのようなことを伝えたらいいか考え、自分の主張をつくっていく。

【本時板書】



齊藤先生よりご指導



1、読み手の意識 自己主張する能力

国語の「書く」単元と算数の棒グラフの学習を必要感に合わせて学び進めていく単元づくりを。

国語
相手や目的の意識
文章(ポスター)の構成
考えの形成、表現の工夫
文章(ポスター)の推敲
文章(ポスター)の共有
国語の学びの各局面に算数の学習を位置づけ、相互の教科の資質・能力を育てる。

算数
事象を数値化、問題設定
構成の中にグラフをかく
その考えの理由をグラフで表現
推敲の中にデータの再分析
批判的思考
グラフのよさの自覚

2、いかに単元を描くか

ポスターをかくて、多くのジャンルの本を読んでもらうというゴールがあるとして…

「読み手を意識」する単元構成

①題材の焦点化…3年生の読書記録を読む、3年生は読書のバランスがいい。他の学年は??

②見通し、構成…ゴールのイメージをもつ。

③構成の検討、形成、推敲…自分で作ったポスター(一応の解)を見合うグラフなどをアップグレード、最適解を導く

④共有、ポスターの発信

ゴールのイメージをもち、学び手が自走するようなプロセスを描くようにしていくことが大切。単元の自由度や探究の目指す学びを追求していくこと。

